

関川村商工会景況調査報告書

関川村商工会では、平成27年7月～12月の下半期を対象期間とした景況調査を実施致しました。商業・工業・観光部会合わせて地区内30事業所さまから調査回答にご協力を頂き、この度集計結果をとりまとめましたので、ご報告致します。

今回の調査結果を活かしながら、商工会会員事業所の皆様のお役にたつ経営改善普及事業をおこなっていきたいと考えております。

経営に関するご相談などがありましたら、お気軽にご連絡ください。

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 地区内小規模事業者
イ 対象企業数 30 事業所
ウ 回答企業数 30 事業所 (回答率 100 %)

(2) 調査対象期間

- 平成27年7月～平成27年12月
(調査時点 平成27年12月1日)

(3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	2	7%	2	7%
建設業	10	33%	10	33%
卸・小売業	5	17%	5	17%
サービス業	13	43%	13	43%
合計	30	100	30	100

2. 地域内産業全体の景況概要

関川村の主幹産業は岩船産米の栽培を中心とした農業であるが、五つの源泉を持つ「えちごせきかわ温泉郷」を中心とした観光業が農業と並び主幹産業となっている。しかしながら観光業に関する課題多く、また全国的な問題となっている少子高齢化による人口減少の問題は当村では深刻であり、特に小売業にとっては厳しい情勢が続いている

【後継者の状況】

若干ではあるが後継者なしとの回答が半数を上回った。特に小売業においては今回の対象事業所5事業所のうち4事業所が後継者なしと回答。購買行動の変化により小規模小売業の経営の厳しさが懸念される

後継者 あり	14事業所	46.7%
後継者 なし	16事業所	53.3%

【売上高】

全産業において売上額が、前年同期比、前期比とも好転したものの今後の見通しは減少するとの見通しをする事業所が多い。全体的にまだまだ先行きが見えない状況今後については、小売業は回復を予想するも製造業、建設業、サービス業では共に悪化を予想している。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
10	8	12	14	5	11	2	13	15

【採算】

全産業において、改善には至らない状況であり今後も悪化するとの見方が大多数を占めており資金繰りも同様に厳しい台所事情である。ただし、建設業で一部回復を示しているものの製造業、小売業、サービス業では、今後悪化を予想している。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
8	9	13	11	8	11	2	16	12

【仕入単価】

全産業において、上昇傾向となっており今後の見通しについても93%が変わらずまたは、上昇するとの見方をしている。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
11	15	4	10	17	3	7	21	2

【販売（客）単価】

全産業において、変わらないがもっとも多かったが一部において上昇したとの回答もあった。しかし、今後もなかなか販売単価が上昇するという好材料は見つからない。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
6	18	6	5	19	6	3	22	5

【資金繰り】

全産業とも変わらないまたは悪化が大半を示しており、今後の見通しも悪化が変わらないであった。

前年同期比

好転	不変	悪化
3	19	8

前期比

好転	不変	悪化
3	20	7

今後の見通し

好転	不変	悪化
0	23	7

【雇用動向】

全産業において、変わらないが大半であるものの一部において増加したが、今後の見通しは変わらないがほとんどであった。

前年同期比

増加	不変	減少
3	26	1

前期比

増加	不変	減少
2	27	1

今後の見通し

増加	不変	減少
0	28	2

【景況判断】

建設業、サービス業で一部改善、製造業、小売業で悪化を示している。また来期予想においては、全産業ともに悪化を予測している。依然として、回復感に乏しい状況となっている。今後においては、海外経済の動向、消費税の再増税の動きなど、不安定要素も依然としてあることで先行きはまだまだ楽観はできない。

前年同期比

好転	不変	悪化
7	12	11

前期比

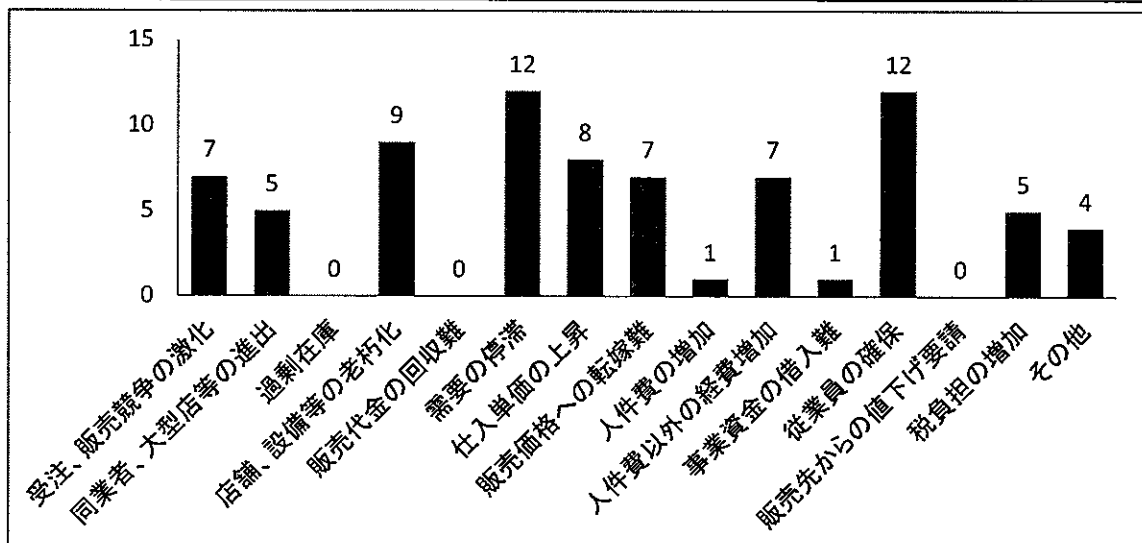
好転	不変	悪化
5	16	9

今後の見通し

好転	不変	悪化
0	21	9

【経営上の問題点】

製造業は、従業員の確保と需要の停滞、建設業は、需要の停滞、設備等の老朽化、従業員の確保、卸・小売業は、同業者、大型店等の進出、販売競争の激化、需要の停滞、サービス業は、従業員の確保、店舗設備の老朽化、販売価格への転嫁難が上位を示している。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

売上、採算、資金繰り、業況の全てにおいて悪化を示した。前年との比較でも変わらない一方で、売上は増加傾向を示している。
また、来期見通しでは、全ての項目で不変を予測しており回復の期待感は鈍く、停滞感が強まっている。

(2) 建設業

売上、採算、資金繰り、業況の全ての項目において、回復までには至らず不変という回答が多かった。また、前期との比較では売上、採算は改善を示していることから回復方向にあり1年前に比べ好調であった。一方で、来期の見通しは変わらずまたは、悪化を予想しており回復感が薄れている。

(3) 卸・小売業

前年同期比、前期に比べて売上、採算、資金繰り、業況すべての項目で悪化または、不変と回答が大半であった。一方、来期の見通しについては、悪化、減少、不変と全ての項目で回復感は見られないと予測していることから、先行きの見通しは、いまだ予測がついていない。

(4) サービス業

今期の景況を前年同期比の項目と比べて売上、採算で好転が見られたものの、前年との比較では不変や悪化、減少となり、ここにきて鈍化傾向に転じている。来期の見通しは、全体的には回復感に欠ける結果となっている。